

シオンの子

第 32 号

2014.5.5



渋川市人権尊重ポスター展
入賞作品 小学6年 女児

学園生活について

小学六年女児

私は学園に来て、今年で十年です。学園では、いやなことやとても楽しかったこと、そして悲しかったこともあります。

学園生活で、とても楽しかったことがあります。それは、学園のみんなが集まる、クリスマスです。なんでかという、友達に親が仕事で、クリスマス一人だったという子がいました。なので、クリスマスにたくさんの子と集まることができるのがとてもいいことだと思っただけです。

学園生活で、悲しいこともたくさんありました。それは、学園の先生がいなくなってしまう、仲の良かった友達がなくなってしまう、学園を卒業してしまい、友達がなくなってしまうからです。

学園っていいところだなとおもうところもたくさんあって、かぞえきれないくらいあります。まず、スキルの学習会です。ふつうの家庭ではできないことだし、自分も身につければ、あいさつや、礼儀が正しくなるなと思っただけです。それに、学校にいても使えるし、社会に出ても使えるからです。

こんなにいい生活をしているのになんかいいやなことがあります。それは、親に会えないことです。でも、私は親に会えないかわりに、学園の先生、学園の子供達に、仲良くしようと思っっています。だから、学園で、いやなことがあっても、ふつうの家庭では、家に帰ったら友達と話せないけど、私は、友達に会えて、話せるから、とてもいいところだなと思って毎日毎日、生活しています。

これからも、学園で、いい生活を送ってゆきたいです。

平成二五年度子持山学園
「詩・作文コンクール」より

編集・発行

社会福祉法人子持山福祉会
児童養護施設 子持山学園

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1

TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153

ホームページ

<http://www.komochiyama1952.com/>

Mail komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp

少子高齢化に思う

社会福祉法人

子持山福祉会

評議員 埴田 昭三

世界の人口は二〇一四年

(平成二六年)一月時点で七億三千七百万人とのことです。一一年後の二〇二五年には八〇億人に達するだろうと大学教授が述べている。ところで日本の人口はというと二〇一四年三月に総務省発表によると一億二千七百万人ということ

で前年より二二万人減っているという。このまま推移していくと内閣府の資料では二〇六〇年に八七〇〇万人、二一一〇年には四三〇〇万人まで減少するとの試算もある。

日本の人口一億人を維持していくには移民を受け入れていくという政府の議論が本格化しているとの報道があったと聞いている。

現在、日本では高齢化、少子化による限界集落という現象も起きている。六五

歳以上の高齢者の割合五〇%を超えるような集落が限界集落と言われているが、限界集落ともなると集落の自治、生活道路の管理、冠婚葬祭など共同体としての機能が衰えてしまい一説には限界自治体とか限界団地とも言われ、やがては消滅に向かうと言われている。

高齢化社会への対応と同時に少子化への対応も急務であると思う。戦後のベビーブームと言われた昭和二二年から二四年に出生した世代は団塊の世代と言われ、この年代を期に少子化へと向かっていく。

出生率が平成一五年には一・三を下回り少子化へ一直線。最近では一六年振りに一・四を超えたとのことである。とはいえ、一五歳以下の子どもの人口は三二年連続で減となり子どもは一六六〇万人。家庭で飼っているペットの数の二二〇〇万より少ないことは笑いごとでは済まされぬ。

子どもが欲しいとする比率は米国、デンマーク、トルコの順に高く、日本は最も低いという。少子高齢化対策として外国人留学生の受

け入れ、フイリピン人看護学生の受け入れも検討されていると聞いているが解決にはほど遠い感じがしてならない。男女ともに晩婚化の現象に歯止めがかからないのも少子化の一因にほかならないが対策や如何に？

最近、子持中学校の入学式に臨む機会がありました。が、新一年生は一三五名でした。昭和一〇年代生まれの者にとつては中学校が二校あり各一五〇名で三〇〇名だったことを思うと世相の違いを痛感した次第。

新中学一年生の緊張した童顔に無限の可能性を秘めたこの子らが少子化の波の中すこやかに成長し大樹となることを念しながら今後の世相の行く末に思いを馳せたひとときでした。

子どもたちの

成長を信じて

児童養護施設

子持山学園

施設長 豊田 誠

今年も四人の子どもたちが学園を巣立っていった。

入所した時期も理由も異なっている。学園の生活にも慣れ自分の居場所ができて、学校でも仲間もできた。自立の時期が迫る頃、食事をしながら話すことができた。A君。中学三年生で学園に来て、すぐに高校受験。気持ちの整理もままならない上に受験勉強……。成績が思うように伸びない。いらだちと不安な毎日。合格したときの喜び。東日本大震災ではボランティア活動にも進んで取り組んだ。音楽や折り紙、剣道と特技を發揮、様々な交流会にも積極的に参加した。「もう少し早くに学園に来たかった」と感想。Bさん。高校三年生で入所。学園を下見して自分で決めた。自立まで半年。優しく小さい子の面倒もよく見てくれた。イラストが得意だ。「老人と話すのが好き」というので特養に進んだ。介護士の資格も運転免許もすっかり取った。C君。希望する高校受験に失敗した。目標を失い迷っていた。高二の時、テレビ会社のアメリカホームステイに応募し、貴重な体験ができた。自分を変えるため

に挑戦をし、映画にも出演。自信を取り戻した。D君。高校の授業では実習に力を入れ、陸上部では全国大会に出場した。前向きな生き方ができ人柄も良く、兄貴として頼りにされている。四人とも夢に向かって元気に頑張っ

てほしい。一二月に天皇陛下よりご下賜金を賜りました。学園の取り組みや職員の仕事ぶりが評価されたことは大いに喜びたいと思う。今後とも、この賞に恥じないよう取り組んでいきたい。子どもたちも作文や絵画の分野でも県最優秀賞等大きな賞を頂いた。学園全体に勇気と自信をもたらした。四月からは子持山学園も定員を四五人にして小規模化に向け一歩を踏み出した。屋上の雨漏りと壁面の改修工事、事務室の改修も無事終了した。今年も多くの人たちの支援と交流のお陰で元気な毎日を過ごせている。感謝の気持ちで一杯です。





子どもの養育を考える

第13回 児童指導員 大場 綾乃

子どもとの関わりについて

新たな出会い・環境の中の生活が始まる四月は、私にとっては後ろ向きになってしまふ。しかし、子どもたちは新しい環境の中で一生懸命で前向きで逞しい。ただ、逞しい子どもたちも帰園した際の「おかえり」の言葉に、「ただいま」と声も低く厳しい表情をしていた。ふと、その時思ったことが、疲れて帰って来た子どもたちがホッと出来る空間と心が安心できる環境を提供出来たらと。

何年か前から治療的養育という言葉が研修のテーマで聞くことが多くなり、私自身の中で治療的養育とは何か分からず、その名の研修には積極的に参加したいと思いついて、参加したが、やはり理解出来ないまま日々過ぎてしまっている。

最近、研修の資料を、読み直す機会があり、その中何よりも、子どもが安心できる安全な環境に子どもが置かれるのでなくてはケアがはじまらない。次に、愛着の形成について書かれていたのだが、愛着を形成する要素とは、感

覚的で情動的な記憶である。子どもがはじめに感じた肌触り、色、音、香り、舌に味わ

う乳の味こそ、愛着を形成する記憶となる。子どもが養育者に愛着を覚えずに生きることはできない。いかに愛着関係を築く事が大切な事がわかる。子どもに対して、安心できる安定した生活を提供することは、心理的にも重要な意味を持つ。清潔で整った住環境を提供されることで、子どもは心理的な安定を得ることが出来るし、また、「自分は大切にされている」といった感覚を持つことが出来るのである。安定した生活リズムのある暮らしを送ることで、生理的にも心理的にも安定していけるのである。と書かれていた。このような環境を提供できるよう日々、努力をしていきたい。最後に、児童養護施設のケア実践の中の「経験・勘・コツ・直観と情性・慣れ」が様々な見逃しを引き起こすという事を肝に銘じていきたい。



平成二五年度

退職職員より

私はこの春、六年間お世話になった子持山学園を退職しました。子どもたちと過ごした六年間は毎日楽しくも、余裕がなくなる日もあり長いようであつたという間でした。

目まぐるしい日々、一人では家事をこなすのも精一杯で大変な日もありました。そんなとき、教えながらも手伝いをしてくれる子どもたち、ハラハラしながら見守って下さいました。そんな子どもたちも上手に料理や掃除の手伝いをしてくれ、その度に頼もしく思い、成長が嬉しかったです。そして私自身、子どもたちと共にいろいろと経験し、成長させてもらいました。子どもたちの優しさや笑顔に支えられて今まで頑張つてこられました。これから子どもたちの成長を楽しみに見守っていきたいと思います。本当にありがとうございます。

保育士 中里宏美

六年前の春、この子持山学園に就職が決まり新たな土地で新しい出会いと生活が始まりました。

入学、卒業、卒園を一緒に祝い、笑いあり、涙ありの子どもたちとの生活はとても思い出深くに残っています。私自身、昨年はお腹に赤ちゃんを授かりました。小学生の男の子は「本当にいるのか確認する！」と言ってお腹に耳を当てて赤ちゃんが動くのを楽しんだり、幼稚園の男の子からは休暇明けに会うと「もう生まれた？」と聞かれたり、女の子はお腹に話しかけてくれたり、「大きくなつたかな」とサイズを測つたり、一緒に赤ちゃんの成長を楽しみ喜んでくれました。

この学園だったからこそ私は自分らしく過ごせたのだと思います。子どもたち、職員、地域の方々にも温かく支えて頂いたり改めて感じる事ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。今後子どもたち、職員の笑顔あふれる子持山学園でありますよう願っています。

保育士 町田麻奈美



新緑が目にあざやかな季節となりました。

まことホームは女の子五名、同メンバーで二年目を迎えています。小中一年生たちはホームのメンバーの応援を背に元気に通学し始めました。

新小学一年生は同室の小五生の助けを借りながら毎夜力エルの目覚まし時計をセットし、自力で起きていきます。小さいながらも学校への意識をしつかり持ち頑張っています。また、新中学一年生は希望高校進学を目標に三〇四運動を実行しています。三〇四運動は子持中でも学習方法(一日四教科三〇分[計二時間]勉強)です。予習復習と机に向かい真面目に取り組んでいる

姿には感心させられます。

高齢児たちはそれぞれ自分を取り巻く環境に対して多くの悩みを持っています。特に人間関係ですが時には感情のコントロールが難しくなり、号泣したり衝突したりもします。けれどそれを出せる場がここにある事が重要だと思っています。

そんな時は時間を掛けてよく話し合い、問題解決していきます。しかし、いざと言う時はとても頼りになり、体調不良の子の対応、多忙な保育士の手伝いなどその動きには素晴らしいものがあります。

私自身研修を積み重ね、専門職としての丈夫な土台を作りたいと考えています。その上でいつか母となる女の子たちへ「ぬくもり」を伝え、心豊かな女性への成長を願ってこれからも支援していきたいと思っています。

まことホーム
保育士 萩原佐輝乃

暖かい日が続き、土筆がかわいらしい姿をのぞかせています、サポート職員としてお世話になり二年目に入りました。各職員方がスムーズに業務を行い、子どもたち一人ひとりの成長を見守るお手伝いをする事が私の役割と考え、すべき事を全うする事を心掛けてきました。日々忙しく動き回り、その中でも子どもたちの様子をしっかりと見極め関わり、小さな子には生活習慣等身につけるように自分を見本のようにして過ごす職員方は、家庭で子育て真つ最中の私には、感動すら覚えていきます。子どもとの会話、接し方などいずれ社会に出て家庭を持つてある子どもたちのよいモデルになるのだろうなと思っっています。そして私も子どもたちと過ごさせてもらおう中で、今までできなかった事が出

た女の子の嬉しそうな姿や、口数少ない中学生、高校生の子たちの時折みせる笑顔と楽しい会話に喜びを感じています。日々の生活の緊張が関わりの中で少しでもほぐれてくれればよいと思っています。

微力ではありますが、これから子どもたち、職員の方の笑顔あふれ、楽しい時間がすごせるホームになりますように努めていきたいです。

サポート職員 高平園英
学園内の未就学児を、日中保育をしているところが保育室です。保育室には、四月一日現在、二丁四歳児三名が在籍しています。一日の始まりは、朝九時に「おはようございます」と元気な声で、保育室の玄関からかわいいお友だちが来ます。「今日の体調と、機嫌はどうかかな？」と様子

来ようになっ



を見ながら、朝の活動に入ります。

そして、午後二時に幼稚園に通っている子が帰ってきて仲間に加わり、三時三〇分に各ホームから職員がお迎えに来て、一日が終わります。今年三月で、年長児二名が保育室を卒業しました。保育室に通う最後となる日に、みんなで「桐生が岡公園」に行ってきました。天候に恵まれ、桜も満開という最高のロケーションの中で、動物と触れ合ったり、遊園地で観覧車などたくさん乗り物に乗り、みんなで楽しく過ごしました。当日は、卒業する年長児二人のリードで一日を過ごしました。行きの車の中では、「今日の約束」を、みんなの前で堂々と発表し、公園内では、小さなお友だちの面倒をよく見てくれました。学園全体では、まだまだ小



かがやく星たち...

さな二人ですが、保育室では大きな大きなお兄さんとお姉さんです。言葉もしゃべれなかつた子が、五年間でこんなに立派に成長した事に嬉しいばかりです。こんな素敵な年長児に憧れて、小さなお友だちの成長を急ぎ立てているようにも感じます。

園内保育担当 萩原啓子

新たな年度が無事にスタートし、昨年に引き続きほしホームでは、毎日笑い声、泣き声、言い争いをする声など様々な声が絶えずに飛び交っていてとても賑やかです。メンバーは、幼稚園の年少さんから高校三年生までの個性豊かな女の子五人が生活を共にしています。普段はとても賑やかな子どもたちですが、みんなとても優しい心を持っていて、私が疲れている時には笑わせてくれたり、私が本当に困っている時には子どもたちの方から自主的にお手伝いをしてくれたりと助けてくれます。時には子どもたちの個性に癒され、時には苦しみ悩んだりもしますが、子どもたちの優しい気持ちに触れると不思議と自然に苦しみや悩みはどこかへ飛んでいってしまいます。

私が初めてほしホームに来た頃から今までを振り返ってみると、子どもたち一人一人のたくさんの成長した姿が目に見えてきてとても嬉しく思うと同時に、私

自身も子どもたちに負けないくらい成長しなくてはいけないなと痛感します。

今からちょうど一年前、社会人として、また子持山学園の保育士として、きちんと働いていけるか不安でいっぱい毎日でしたが、気がつくとも終わっていた私の社会人一年目。昨年に引き続き、今年もほしホームを担当させていただけることに感謝し、二年目は笑顔で落ち着いて子どもと接することを目標に子どもたちと関わっていききたいと思えます。

ほしホーム 保育士 秋山加奈子



将来の夢 小六女兒

私の将来の夢は、プロバスケット選手。私がバスケットに興味を持ち始めたのは三年の時だった。休み時間にバスケットをして友達に来て言った。

「一緒にバスケットをしよう。」 私はそれをきっかけにバスケットに興味を持ち始めた。そして私は友達と一緒にバスケットをした。私はまったくできなかった。いやになつた。そうしたら友達優しく教えてくれた。それも一つのきっかけになった。バスケットには友情という言葉もつくことが。私は次の日にバスケットをやった。転んだ。友達が、「大丈夫。」と言ってくれた。うれしかった。それはサッカーでもあった。それが

きっかけてだれか転んでいたら声をかけるようになった。うれしくなつた。もう一つのきっかけは、六年のことだった。バスケットをした。みんなやつた。私のチームはすごくうまくいった。次の日。バスケットをやつた。私のチームは、一人できない子がいた。チームの一人がいなかった。そのとき私は思った。チームの仲間が必要だと。

私は将来に向けてなにをすれば良いのか考えた。私は思った。まず一つは相手に優しく接すること。二つは、転んでいたら声をかけること。それを大切にしようと思った。

平成二五年度子持山学園『詩作文コンクール』より



高崎和田ライオンズクラブ 国際平和ポスターコンテスト 入選 小学六年 女兒

活動報告

平成25年11月～平成26年4月

- ・七五三児童祝福式
- ・渋川教会ゴスペルコンサート招待
- ・五東労組文化祭招待
- ・おもちゃ王国無料招待
- ・全日本プロレス観戦招待(浜選手来園)
- ・ザスパ草津戦招待
- ・渋川チャイルドゆめフェスティバル
- ・善行会群馬県北毛支部「お餅つき」
- ・七五三撮影(高崎和田ライオンズクラブ)
- ・群馬シテイフィルハーモニー演奏会招待
- ・学園、地域、教会クリスマス会
- ・子持山学園「詩・作文コンクール」
- ・年未年始の帰省
- ・道祖神祭り(どんど焼き・地域行事)
- ・NO STRESSスキルアップセミナー
- ・地区上毛カルタ大会
- ・群馬県ALT(外国人教師)来園交流
- ・節分
- ・学園スキー・スノボ教室
- ・県なわとび連盟主催「県なわとび大会」(県なわとび連盟会長は当園豊田園長)
- ・モロオレンジリボン・子育て支援団体 Mother of Peace 様より
- ・卒業生激励会、ゴスペルコンサート、プロバスケットボール観戦
- ・卒園児童 壮行会(激励会)
- ・幼・小・中各校卒業祝い
- ・園内でパーベキュー(渋川中央ライオンズクラブ)
- ・読み聞かせ会(シアターMIK&MI)
- ・園内保育お別れ遠足(桐生ヶ岡公園)
- ・中之条の畑、芋植え
- ・幼稚園・各校入学式(ホームでお祝い)
- ・大相撲前橋場所 招待
- ・高崎和田ライオンズクラブ45周年式典
- ・イースター 早天礼拝
- ・カットボランティア(理容生生活同業組合、小澤様)
- ・その他、多数の招待、奇贈等に感謝

平成二六年四月入所児童状況

- ・ 幼児 三名
- ・ 小学生 一六名
- ・ 中学生 一七名
- ・ 高校生 一名



七五三



卒園式



ライオンズパーベキュー



壮行会



クリスマス会



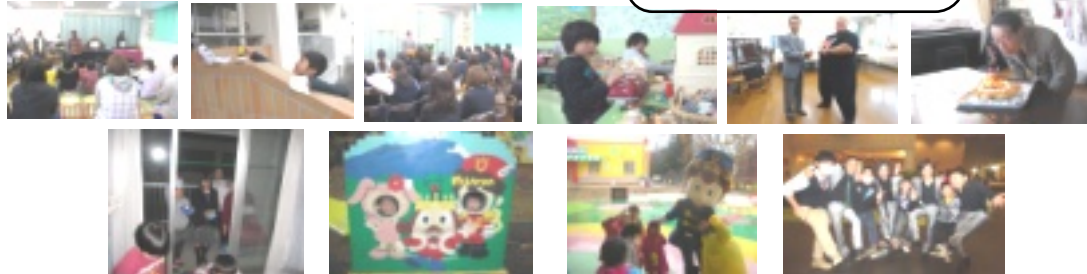
県ALT交流会



全日本プロレス!!



読み聞かせ会、イースターおもちゃ王国招待 etc...



学園を支えてくれる『ひと』

私たち、群馬県青年赤十字奉仕団は、月に一度の学習ボランティアを通じて学園の小学生の子どもたちと関わってきました。子どもたちが解いたプリントの問題に添って教えていくという形で行ってきました。子どもたちの勉強している姿を見ると静かに黙々と勉強する子、分からない問題があり悩みながら勉強する子、どうすれば解けるのか積極的に聞く子など様々な様子がありました。学習ボランティアの日以外でも日頃から課題プリントを取り組んでいる様子が窺えたので勉強に対する意欲があるのだと感じました。また、勉強をするだけでなく、ちよつとした時間に学校での出来事や好きなことについてお話をして楽しみながら過ごすことができました。また、子どもたちは、本当に一生懸命勉強に取り組んで努力していたと思いました。私も取り組む姿勢を子どもたちから勉強させられました。これからも学習ボランティアや交流を通して学園の子どもたちと関わっていただけることを楽しみにしています。

群馬県青年赤十字奉仕団
 団員 阿藤雅和



**コモセンズ・
ペアレンティングとは**

Common sense parenting
(略)CSP

アメリカの児童福祉施設ボ
イスタウン(Boys Town)
で開発された育児トレー
ニングです。暴力や暴言を
使わずに子どもを育てる技
術を使い、虐待の予防や回
復を目指します。

大きな特徴は、子どもの
問題行動を予防する事(予
防的教育法)にあります。
子どもに行ってほしい事を
具体的に話し、練習し、実
行できた時には具体的に誉
める。

この行動を繰り返す事に
より、子どもと大人の信頼
関係の強化と、子ども自身
が適切な社会スキルを身に
つけ、社会生活での成功が
期待できます。

日本子ども養育研究会主催
『平成三十五年度 子どもと向き
合うスキルアップ講座』より

平成二六年一月末、二泊三日の
神戸での研修に行かせてもらいま
した。
日本子ども養育研究会主催の
「子どもと向き合うスキルアップ
講座」です。

講師は、神戸少年の町(施設長)
野口啓示先生、あゆみの丘(副施設
長)堀健一先生、八楽児童寮
(スーパーパーバイザー)小宅美栄先生
でした。

研修内容はCSPを基にした子
どもへの支援・援助の具体的方法
から、子どものさまざまな問題に
向き合う「問題解決技法」。そし
てそれらを職員間で共有し、施設
の養育の質を高めていく事につな
げる「会議の技術」までを講義・
演習を通じて学ぶというものでし
た。

講師陣は、ボイスタウンで直
接学び、各施設にて実践し、実績
をあげてきた方々ですので、話は
リアルかつユーモアもあり大変興
味深く拝聴できました。

その中でどの講師の先生も強調
されていたのは、職員間の「意思
統一の大切さ」でした。

その内容を少しお伝えしたいと
思います。

私たちが子どもに対して行う事
に受容と許容があります。受容と
は子どもの気持ちを理解する事。
これは無制限に聞いてあげてほし
い。それに対して、許容とは内容・
行動を認める事。これには制限が
あります。許容は個人の価値観に
よって当然差が生じますが、職員
集団としては統一して下さいと言

うのです。

何故ならば、我々プロの仕事は
子どもに対して落ち着いた施設生
活を提供する事だけではなく、そ
の後の社会生活・家庭生活を上手
く送れる子に育てていく事にある。
これは職員個人の熱意だけでは
特定の職員とだけ上手く付き合え
る子・施設内だけ上手く立ち回れ
る子を生み出し、結果その職員が
退職するとためになつたり・社会
に出ると上手くいかなくなつたり
と、子どもを苦しめてしまう結果
になつてしまっている。

子どもが誰に対しても適切な行
動をとれるよう習慣づけるには、
職員全てが適切な行動に対して同
じように評価してあげる事にある
そつです。

四月から新学期が始まり、担当
ホームの子どもたちも一学年ずつ
上の学年に上がりました。各自少
しずつ難しい事が要求され、頑張
る事も増えると思いますが、職員
が一丸となつてこのプログラムに
取り組み、子どもの成長を支援し
ていきたいと思ひます。

特に高校三年生の子は、来年の
春施設を巣立ちます。彼が社会に
適応する

為にこの
プログラ
ムが彼の
力になる
事と思ひ
ます。



浅田ホーム
保育士 鈴木まつみ



今年度のフレッシュな
顔ぶれです。一生懸命頑
張ります!!(保育士四名)



石坂 隼一(左後)
田中絵里菜(右前)
星野 采香(左前)
林 香保留(右後)

Q1・趣味は?

- (石坂) アニメ
- (田中) 吹奏学部の定期演奏会に足を運ぶこと
- (星野) 少し遠出をしてドライブをする
- (林) 遠くに出かけること

Q2・好きな言葉は?

- (石坂) 我が生涯に一片の悔いなし
- (田中) 人は幸せになるために生まれてきた
- (星野) 泣くより笑え!
- (林) 情けは人の為ならず

Q3・子どもとどんなふうに過ごしたい?

- (石坂) 公園でサッカーがしたい
- (田中) 一緒に成長できるよう子どもからも学びながら過ごしたいです
- (星野) とにかく笑って、とにかく元気に過ごしていきたいです!

Q4・今、ハマっていることは?

- (石坂) アニメ
- (田中) 妖怪体操第一
- (星野) ハンドメイドでなにかをつくること(ピアス)
- (林) 柔軟剤

お心遣いに感謝致します

(13・11・14・4) 敬称略・順不同

寄付金

中村光孝、佐藤馨、須藤いづみ、島村美也子、
沢川市小野上地区更生保護女性会、大塚廣末、
山口道子、斎藤医院、蛭川かつ子、渡辺眞由美、
日本善行会群馬県北毛支部、中澤文子、月建設、
大橋未六、沢川皮膚科医院、八百耕、石北医院、
高橋潔、ミート星野、飯塚寛巳、青木登志子、
沢川教会、沢川中央ライオンズクラブ、布施清、
島田卓爾、小金静枝、布施英俊、匿名の方

他多数の各位

寄贈物品

五十嵐研介、中新井要子、金井秀夫、登坂茂貴、
横尾円、㈱毛手カバン店、亀山理映、八木寛治、
全国シヤンメリー共同組合、町田勝次、金子誠、
武藤孝夫、㈱三菱東京UFJ銀行、狩野昭子、
並木なつ江、小山一成、佐藤洋司、中村恵美子、
中野順夫、㈱フレナス、石井キミ、㈱南澤建設、
海野千鶴、毎日新聞東京社会事業団、丹羽稔、
日本鏡餅組合、神楽サロン、鈴木音楽教室、
㈱インターマリンシヤパン、岩倉克治、佐藤勝、
天野貞利、釘島伸博、ワールドメイト、林弘子、
秋山賢司、堀川愛生園、今井みずえ、柴崎尚長、
高橋さみ江、萩原英樹、狩野篤子、中澤達雄、
根岸一之、梅澤美晴、まつだ商店、門司一徹、
大井圭子、山田孝夫、群馬ヤクルト販売㈱、
藤井正雄、佐藤ひで、高橋春美、星野義夫、
堤英和、匿名の方

他多数の各位

ボランティア

児童交流(須藤いづみ)
ベビーマッサージ(林 弘子)
書道 山口道子、大塚廣末
絵画教室 ビノキ才絵画教室
学習 群馬県青年赤十字奉仕団、宮下せいら
中野宏栄、小池歩、福本亜美、高橋潔
ピアノ 鈴木音楽教室(沢川市)
カットボラ 群馬県理容生活衛生同業組合
小澤のさみ

掲示板

退職職員紹介

これまで大変お世話になりました。
保育士(中里宏美、町田麻奈美)
非常勤(長綿文子)

新任職員紹介

ご指導の程宜しくお願い致します。
保育士(石坂隼一、田中絵里菜、星野来香、
林香保留)
非常勤(田口みどり、柳井恵子、小菅美津江)

苦情解決報告

計0件
(平成二十五年一月~平成二十六年三月)

ご支援・ご招待等々
ありがとうございます。
心から感謝しております。

県共同募金会様、NHK蔵未たすけあい、
普通自動車免許取得のため四名の高校生が
一人二十万円の支援(配分)を受けました。
県民の皆様のご善意に感謝します。

㈱ニユー東京様
学習イスの整備。定期的に支援を頂いて
います。

沢川中央ライオンズクラブ様
バーベキューのご奉仕。

シアターMIKKI&EMMI様
読み聞かせ、リズム遊び等のご奉仕。

布施清様(当園卒園生)
昨年に引き続き、今年も多額の寄付を頂き
ました。とても温かいお心の持ち主です。

WRESTLER1様
プロレス観戦、大相撲前橋場所への招待。
浜選手が何度も来園下さっています。

群馬県保険協会様
子ども用パソコン三台の寄贈

日本善行会群馬県北毛支部様
お餅つきのご奉仕。

群馬シティフィルハーモニーオーケストラ
素晴らしい生演奏を堪能しました。

高崎和田ライオンズクラブ様
結成四十五周年記念式典への招待。国際平和
ポスターコンテストに当園児童二名が出席。
うち一名がとして地区優秀賞として表彰さ
れました。(本誌、表紙の絵です)
七五三写真撮影のご奉仕。

NPO法人オレンジリボン様
プロバスケ観戦招待。
卒園生激励会「VOXRAYコンサート」
に招待。
子どもたちのために様々な企画を提案下さ
っています。

NPOスターズ様
高校三年生対象、自立支援講座、メイキャッ
プ講座を開催。とても分かりやすい内容。
県内ALITの皆様
他国の方々と異文化交流。(六回目)

星野総合商事様(星野義夫様)
カップラーメン三〇箱、スイカの寄贈

群馬県児童養護施設連絡協議会や豊寺に寄付。
寄贈を頂き、県内の各施設に配分されました。
皆さまの温かいお心遣いが子どもたちに届い
ております。(以下、お名前のみ紹介します)

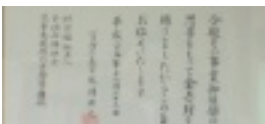
多くの匿名の皆様
高崎和田ライオンズクラブ様
群馬県遊技業協同組合様
高崎市在住 渡部様
前橋市在住 鈴木様
高崎市 木村会計事務所様

お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ
合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温
かな善意の上に私たちの生活が成り立ってお
ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

北極星

ある夕方の出来事でした。子
どもがぱつと時計をみてゲーム
を時間前に終わらせ、片付ける
事ができていました。保育士が
「時間を見て行動できて偉いね」と
声掛け。その子は「うん」と
うなずき、「...ねえ、何かお手
伝いすることない?」と普段な
ら暇になると遊びやテレビを見
る子が積極的に言ってくる様
子になりました。「外の見回りと夕食運
ぶくらいかなあ」と保育士が言
うと、「それ、手伝う!」とやる
気満々。一緒に園庭のゴミ拾い
をしていると、「みてっ!これレ
アなゴミ!」これは何だろっ?と
とゲーム感覚で遊びながら手伝
ってくれる子ども。ふと、の
おかげで学園がきれいになるね」と
と保育士がいつと更に嬉しくな
ったようで、もくもくとゴミ拾い
を手伝ってくれました。何気な
い日常の中で出来て当たり前と
思うことは多くありますが、
「あなたの頑張っているところ、
出来ているところ見ているよ」と
いう意味で褒めてあげる大切
さを改めて感じる事ができま
した。子どもたちのやる気に繋
がるならば、いくらでも褒めて
あげたいものです。

(飯島)



天皇陛下より御下賜金
を賜りました。
役職員一同、今後とも
子どもたちのために
精一杯がんばります。